

## 令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・文字式の問題は、比較的正答率が高く、継続的な振り返りによる成果が見られた。(第2学年)
- ・基礎の問題は、目標値を上回っており、ワークやタブレットドリルなど、繰り返し学習を重ねた成果が感じられる。(第3学年)

#### (2) 課題

- ・他の単元と比べると比例・反比例のグラフから式を読み取る、式からグラフを書く能力が低い。また、一次方程式に関する知識・技能が低い。(第2学年)
- ・連立方程式の正答率が低い。特に文字が問題文中の何を表しているか理解できていない生徒の割合が多い。(第3学年)

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎は目標値を若干下回っているが、活用は目標値を若干上回っている。	/	/
第2学年	基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に活用は6ポイント近く下回っている。	基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に活用は10ポイント近く下回っている。	/
第3学年	基礎は目標値を上回ったが、活用では目標値を僅かに下回った。	基礎・活用ともに目標値を上回ることができた。	基礎・活用ともに目標値を上回ることができた。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対して 2.6 ポイント下回っている。特に小数・分数の計算を苦手とする生徒が多い。	目標値に対して 1.1 ポイント上回っている。立体の体積や正しい単位量を考える問題の正答率は高かったが、平均・場合の数の問題について誤りを指摘する問題を苦手とする生徒が多かった。	目標値に対して全体で $\Delta 0.7$ ポイント上回っており、主体的に学習に取り組む態度は概ね身につけている生徒が多いと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を僅かに下回っており、継続的に基礎・基本の定着を図っていくことが必要であると考えられる。	目標値を 5.4 ポイント下回っており、問題文や表・グラフから必要な情報を読み取ることに課題が見られる。	目標値を 6.2 ポイント下回っており、日常との関わりや有用性を認識させ、利用していくことに課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っており、全体的に既習事項の定着は図られていると考えられる。	目標値を下回っており、特に連立方程式の文章題の文章理解や、箱ひげ図の読み取りに苦手が見られる。	目標値を上回っており、主体的に学習に取り組む態度は概ね身につけていると考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校の復習を授業にも随時取り入れ、小数や分数を含めた基本的な計算方法についての理解の定着を図る。	生徒に考えさせる時間を確保し、自分の考えを説明する機会を授業内で作るようにする。	学習内容と日常生活との関わりに気づかせることで、数学に興味を抱かせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを実施して既習事項の復習の機会をつくったり、授業開始時の振り返りの時間を通して基礎・基本の定着を図っていく。	教科書の問題に加え、ワークやタブレットドリルなどでより多くの文章題に触れる中で、生徒間で考えを共有させ、よりよい解法を求めるよう支援する。	単元開始時に日常との関わりや有用性について認識させるとともに、授業ごとにねらいを明確にして学習を進めることで主体的な態度を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットドリル等を用いた反復学習で、基礎基本の定着をより一層はかる。また、連立方程式を苦手としている生徒が多いので復習の機会を設け内容を定着させる。	文章題において、何を問われているか理解することを苦手としている生徒が多い。なぜそう考えたか根拠を伝え合わせ、正しく問題把握できるよう指導する。	学んでいる内容が実際の生活にどう関わっているか気づかせる授業展開を意識し、学ぶ意欲を高めていく。